１）雫石地区

Ⅰ ■地区の将来像（20 年後に実現したい姿）

住む人　訪れる人を元気にする町　しずくいし

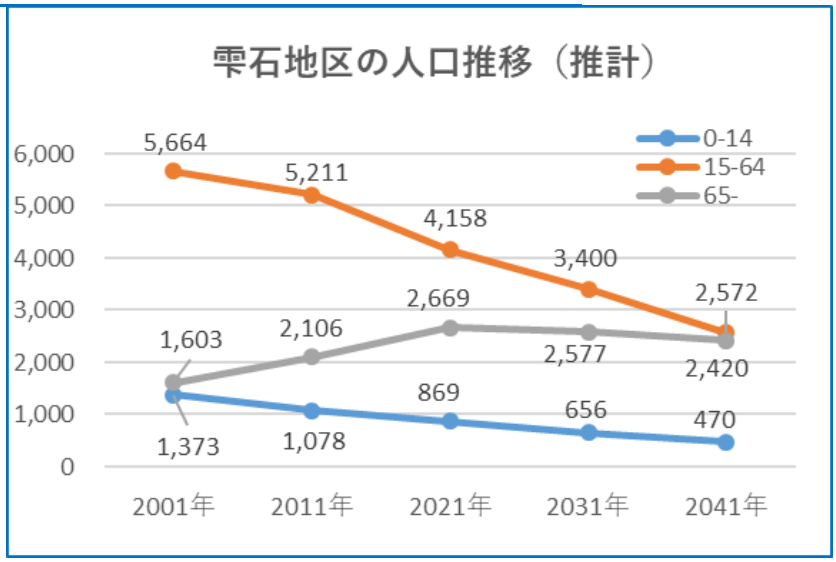
雫石地区には、雫石駅や商店街があり、雫石町の都市機能を担う中心的な地区であるとともに地区外からの来訪者を迎える顔となる地区です。

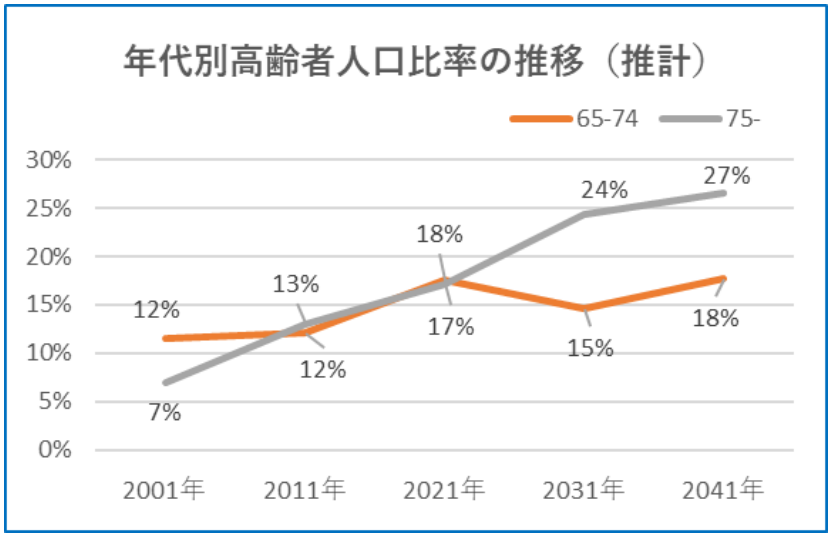
そのため、雫石地区は町全体における役割も意識し、先人の歴史や活動も活かしながら、雫石地区に住む人たちが自分たちのまちを楽しむことを通じて、町の玄関口・中心地として、明るいエネルギーを発信する地区を目指します。

地域づくり計画の趣旨

近年、日本は阪神淡路大震災や東日本大震災など『災害の激基化・頻発化』、また、『新型コロナウイルス感染症』という危機に直面しています。また、地方においては「人口減少問題、超高齢化問題」がさらに大きな現実問題となっております。本町の人口も、暮らしを維持していくことが危うくなるほどに人口減少が進んでおり、これら危機に立ち向かう手立てを早急に打つことが必要です。今後も雫石地区で暮らし続けていくことができる活動を明記し、持続可能な地域づくりを行なっていくために策定したものです。

Ⅱ　人口の予測





地区の人口は、2021 年３月現在 7,696 人で、そのうち 65 歳以上の高齢化率は 34.7%です。町の中心的な地区として人口も比較的多く、高齢化率も４地区の中では最も低い割合となっていますが、人口は減少を続けており、このまま推移した場合、10 年後の 2031 年には 6,633 人まで減る予測です。特に働く世代（15-64 歳）が著しく減少します。

また、現在地域を支えている世代である 65～74 歳のの人口比率が減少し、支えられる世代 75 歳以上の人口比率が増加します。

Ⅲ　地域の特性と現状

１．地域の特徴

・ 雫石駅や商店街、高校や病院など、都市機能が集中し、町内で最も人口密度が高い地域です。
・ 広域的な幹線道路でもある国道 46 号周辺に位置していることから、隣接する県都盛岡市へ約 20 分の距離にあります。また、ＪＲ田沢湖線の雫石駅は通勤・通学に利用されるほか、秋田新幹線こまちの停車駅として首都圏からのアクセスもよく、観光客などの本町への玄関口となっています。その他の公共交通手段として、県交通雫石線、あねっこバスがあります。
・ 22 の行政区からなり、200 世帯以上の行政区が６つ、100 世帯以上の行政区は４つあります。

※元御所行政区について
　元御所行政区は計画作成時の平成 28 年度時点で御所地区となっていましたが、平成 29 年度以降雫石地区に編入されたため、雫石地区に元御所行政区を含んで計画の見直しを行っています。

・ 地区内には、雫石小学校、七ッ森小学校の２つの小学校があります。教育・保育施設は雫石保育園、七ッ森保育所の２か所あり、そのほか雫石児童館があるなど町内唯一子供の人数が多い地区です。は放課後や休日に幼児・児童が利用できる施設です。
・ 2010 年の国勢調査によると地区の就業人口割合は第１次産業が 10%、第２次産業が 19%、第３次産業が 71%です。
・ 景観として、一里塚や生森山散策路等が魅力です。

２．地域の活動・行事

・ 各地域で盆踊りが続けられているほか、よしゃれやさんさ踊り、雫石神楽など伝統芸能が継承されています。
・ 町民運動会など、行政区対抗のスポーツ行事が毎年定期的に行われています。
・ 商店街で５月から 11 月の第１日曜日に開催されている「元祖軽トラ市」は、10 年以上続いています。

Ⅳ　地域の強みと弱み

１．地域の強み

・ 町の都市機能が集中していますが、少し歩けば桜並木やホタルが見える場所もあり、自然と都市機能の両方を備えた素晴らしい生活環境です。
・ 町民運動会などのスポーツ行事が盛んで、また、町総合運動公園や中央公民館などの施設があり、大きな催しが開催できる環境です。
・ 町内で唯一、若者、子供など若い家族の多い地区であり、そのことは、将来の子供たちのＵターンや関係人口の増加など、町の持続性の大きな原動力になります。
・ 子育て環境が充実しており、小中学校共に、自校での完全給食や、治療費助成など子育て世代に易しい制度があります。
・ 在来線や秋田新幹線など停車駅があり、首都圏や県庁所在地盛岡市へのアクセス性が良い環境です。また、ネット環境が整備されていることから、リモートワークやセカンドライフに対して充分優位性がある立地条件です。

２．地域の弱み

・ 都市機能が集中している分、交通量が多いですが、歩道の未整備区間もあり、雪捨て場の確保や空き家、空き店舗前の除雪に関する整備や仕組みがなく、交通安全対策が十分ではありません。
・ 地域内には、空き家や商店街の空き店舗が目立つようになっています。
・ 転出入が多い、Ｕターン人口が少ない、町外勤務者が多く日中に人が少ないことから、地域のつながりが希薄になりつつあります。
・ 防災に関する意識に差があり、防災マニュアルはありますが、地域に浸透しておらず活かされていません。
・地域の良いところや魅力をいかにして、発信していくか、検討が必要です。
・子供の人数が減少傾向にあり、このまま推移すると小学校も存続の危機にあります。

Ⅴ　解決したい課題

１．身近な風景や自然環境への親しみ不足

雫石地区には、小岩井の一本桜のほかにも雫石川園地の桜、生森山展望台など身近な景観スポットが数多くあります。一方で、近年では渡り鳥による桜の食害や雑木により景観の良さが保たれていない場所もあり、整備が必要となっています。

また、町民に親しまれている景観スポットでも町外の人々に知られていないことから、積極的な情報発信が必要となっています。

２．施設の利用者減少と祭りのにぎわい不足

中心商店街と多くの住宅地があり、公共施設も充実し、アルペン公園をはじめとする公園も各地に整備されていますが、これらの既存施設が十分に活用されておらず、利用者も減少しています。

また、各地域で祭りが開催されていますが、参加者の減少や規模縮小、役の担い手不足になどによりにぎわい不足が心配されています。

３．歩きにくい歩行環境

通学路に歩道が少なく、砂利道や段差があり、商店街の路上駐車、垣根や植え込みの枝が歩道にはみ出すなど、子どもからお年寄りまで安心して歩ける歩行環境になっていません。また、商店街や住宅地では雪捨て場がなく、少子高齢化や人口減少により、除雪が困難となり歩行環境の妨げになっています。

４．人づきあいの希薄さ

同じ地域にいながらもその地域に住む「人」や「物事」について知らないことが多く、コミュニティ内での人付き合いの希薄さが感じられます。若い家族が古くから住んでいる住民と共同で働きコミュニケーションを図れる場、機会、そしてその為の仕組みが必要です。

地域での相互扶助の活動や世代を越えた交流の機会を増やすと共に、行事を行う際の役の負担を減らし、役の担い手の育成を行っていく必要があります。

また、子どもの外遊びの活発化など地域全体を元気にしていく場と仕組みが必要です。

５．商店街利用者の減少と発信力の弱さ

商店街活性化のため軽トラ市やまちおこしセンターを使ったイベントを行っており、軽トラ市は町内外から来客のあるイベントとして定着していますが、中心市街地で行われるイベントの情報は一部の人にしか伝わっていません。

また、新鮮な農産物が手軽に手に入る産直が点在しているので、より利用者の増加を図るため、産直マップを活用するなど情報発信をしていく必要があります。

６．地元にもあまり知られていない歴史…

雫石城跡や野菊伝説など、古くからの歴史・言い伝えが残っていますが、あまり知られておらず、学習活動も十分に行われていません。

また、郷土（重っこ）料理や方言など残したい伝統文化は、価値観の多様化などから後継者（語り部）の育成や伝承活動が進んでいない状況です。

Ⅵ　活動メニュー

地域の強みと弱みをを理解し、地区の将来像を実現するために想定される方針や取り組み内容は次のとおりです。

また、令和２年度に形成された雫石地区運営部「アイディアコンテスト」では、以下に記されている活動メニューを元に、実施採用判断をすることで住民活動をより自主的かつ活発に実施することになります。

自然	**方針１．** 美しい景観を活かしたまちづくり

①自然景観の保全・活用

地域内には、雫石川園地や生森山、雫石駅裏の田園風景、ホタルなど、町の中でありながら素晴らしい風景や自然景観があります。それらの整備や保全を行いながら、町内外の人々が訪れたくなる人と自然が調和したまちづくりを目指します。

- 景観スポットの環境整備と保全、散策路の整備を行う
- 水辺環境の保全
- 雑木林の手入れを提案
- 商工会裏から中寺の前を通り、駅前へ続く道路の環境美化
- 雫石川園地の活用

②雫石川園地の桜並木の保全

桜並木は、近年冬に飛来するウソによる花芽の食害に悩まされていることから、河川敷の生態系に配慮しながら、桜をきれいに咲かせる方法を学ぶ機会を設けるなど、住民みんなで桜並木を保全します。

- 樹木医との勉強会を開催し、桜をきれいに咲かせる方法を学ぶ

③「雫石勝手に十景」の発掘と発信

地域にある様々な景観スポットを、インターネットなどを活用して発信します。固定された十景ではなく、選定基準は発信者が任意に決め、「雫石勝手に十景」として発信します。

- 22 行政区の 20 年後に残したいものを集めたフォトブックを作成する

（平成２９年度　十景チームとして各行政区の特徴を写真に収めた、フォトカレンダーを作成）

交流　方針２．既存施設の活用促進と祭りでにぎわいの創出

①既存施設の活用

アルペン公園、野菊公園、運動公園を地域づくりの場として活用し、積極的な情報発信をしながら、子どもから大人まで楽しめる場にします。

- アルペン公園の街灯整備の推進
- 野菊公園で花火を見やすくする
- 各公園のトイレの冬期使用の要望　など

②雫石駅を中心とした交流の促進

上り坂に囲まれた雫石駅周辺から町なかへのアクセスの利便性を向上し、利用者を増やします。

- 雫石駅を中心としたサイクルコースの提案
- レンタル電動アシスト自転車の拡大
- 電気自動車シェアカー制度の導入

③お祭りのにぎわい創出

各地域で大小さまざまなお祭りが開催されています。その情報を積極的に発信することで、見る人・参加する人を増やし、祭りのにぎわいの創出を図ります。

- 雪灯りの日を作り、多くの人が楽しめるイベントを行う
- ＳＮＳでの積極的な情報発信

安心　方針３．安全・安心なまちづくり

①通学路・ウォーキングコースをみんなで守る

通学やウォーキングが安全にできるように、歩行環境の整備や見守り活動を推進します。

- 見守り活動の推進
- ベンチや路上駐車禁止ポスターづくり
- 時間帯一方通行の検討及び要望
- 植え込み所有者への注意喚起
- 道路改修箇所の情報収集・管理者への要望

②冬でも安心して暮らせる除雪対策の充実

雪の問題は雫石町で快適に暮らしていくために欠かせない取り組みです。使用していない町有地などを活用して雪捨て場を増やし、除雪を担う人材確保と除雪に関する仕組みを構築します。

- 雪捨てニーズの把握、共助による除雪対策

③防災意識を高め地域を守る

誰もが集まりやすい行事などを活用し、防災に関する意識改革や訓練を行います。既存のマニュアルを周知すると共に、情報発信の仕方を検討し全世代に情報が行き渡るよう取り組みます。

- 防災訓練と行事を組み合わせ、楽しみながら防災意識を高める

世代　方針４．世代を越えた交流によるみんなが元気な地域づくり

①気軽に参加できるコミュニティをつくる

地域内の交流が活発になるようにイベントの創出、情報発信・受信を積極的に行うことで、気軽にあいさつを交わし、誰にでも相談できるよう

なコミュニティをつくります。

- 回覧板手渡し運動、顔が見える連絡網
- ＳＮＳを使った行政区イベントの周知
- 人の繋がりやネットワークづくり
- 誰でも相談しやすい人材の育成
- 世代間交流の場としての運動会の開催
- 向こう三軒両隣の関係づくり

②元気な子どもを地域のみんなで育てる

遊びでも勉強でも、子どもが自分から興味を持って取り組めるように、地域の大人が様々な選択肢を提供し、地域の行事と融合できるような取り組みをしていきます。

- 学童クラブと連携したお年寄りによる遊びの出張ワークショップ
- 地域の地元企業との交流会の創出（ゲームのプログラミング、外遊びワークショップなど）
- 子ども会の活性化（ジュニアリーダーズクラブＳＫＹとの連携、地域安全マップづくり）
- 子供たちの夢がかなうプロジェクト“アイディアコンテストの実施

③元気なお年寄りを増やす

お年寄りの活躍の場を作り、生きがいのある暮らしを実現して元気で活発なお年寄りを増やす取り組みをしていきます。

- 映画会、カラオケ、麻雀、将棋、囲碁
- 学童、保育所、子供会との連携・出張
- レインボー健康体操、シルバーリハビリ体操や料理教室の開催

④行事への参加者を増やす

ライフスタイルの変化から、行事に参加できる人が減少しているため、行事の開催日時の検討や行事そのものの開催方法、行事の組み合わせを工夫するなど、誰もが参加しやすい開催方法を検討する他、参加周知方法を工夫するなど、取り組んで行きます。

- 体育会行事をみんなが参加したいと思える競技への見直し
- 子供やママさん、若い人が参加できるイベントの開催（スポーツに限らず）
- 出たい人が出られる仕組み作り
- 行事に誘い合える関係作り
- 行政区同士連携し参加人数を増やす

拠点	**方針５．** 商店街を活性化し、地域の元気を発信する

①キラキラと輝く商店街化

軽トラ市以外にも子どもから大人まで気軽に参加できるイベントを創出し、活気ある商店街にしていきます。

- 雪灯りイベントと連携し、かまくらの中でどぶろくを飲める企画や子どもも楽しめるイベントを行う
- 季節の装飾などで、空き店舗に見えない外観
- 行事予定チラシの全戸配布
- 空き店舗を利用した新規事業の支援、周知

②まちおこしセンターをみんなが気軽に利用できる場所に

誰もが気軽に利用できる環境にし、地域の拠点施設としての機能を充実させます。

- 貸館機能のＰＲ、展示会やイベントの実施
- 町に関する書籍や広報などを備える
- 不動産情報の案内所としての機能を備える
- 夜時間のある人向け講座の開催
- 雫石の特産品を置いた物産の強化
- 郷土料理・おふくろの味でカフェ機能の充実
- ビアガーデンの複数回開催

③産直（無人販売所）のＰＲ強化による活性化

地区内に点在している産直をまとめたマップを活用し、購入者が増え、生産者、消費者とも生活しやすい町にします。

- 子ども会と連携した産直体験（収穫・袋詰め・品出し・販売まで）
- 生産者、産直の特徴を生かしたＰＯＰや看板の作製
- 無人販売所の改修や塗り直しなどのリノベーション提案
- 生産者おすすめレシピ集の作成
- 各産直での野菜カレンダーの配置

歴史	**方針６．** 人をつなぎ伝統文化をつむぐ

①歴史・伝統文化の伝承

この地ならではの歴史や伝統文化をもっと理解できればより地元愛が育まれます。そのために、地元の歴史・伝統文化を学ぶ環境を整え、古き良きものをこれからも引き継いでいきます。

- 雫石大火や野菊伝説、小岩井の由来など、地域内の歴史勉強会の開催
- 郷土料理作り講習会の開催、レシピ冊子化
- 方言教室の開催、語り部の養成講座、方言・昔話の冊子化
- 上寺、中寺、下寺や神社などの植物観察ツアー
- よしゃれ、さんさ、雫石神楽、霊灯り、裸参りの伝承、維持、発展

見直し	**方針 7.** 地域の役と行事を見直し、誰もが関われるまちづくり

①行事実施　役のスリム化

行事を行う際の役の負担を減らし、誰もが関われる様に行事の見直しを行います。誰もが楽しみながら役を持ち、次世代育成を行い、一部の人の負担を減らすよう取り組んで行きます。

- 防災訓練と BBQ を一緒に開催するなど、行事の掛け合わせ
- 地域の役へだれもが関われる仕組みづくり
- 副区長制度や区長補佐制度の構築
- 新たな自治会事案に対応できる体制づくりの為の次世代リーダーの育成
- 各自治会への勉強会、出前講座の実施
- 各種行事や会議の日程を調整し行事や会議のスリム化
- 役の仕組みをわかりやすくする